

# 群馬県地域リハビリテーション支援センター

## ニュースレター 31号

2018. 12. 10

### 第17回群馬地域リハ研究会のお知らせ

【日 時】平成31年1月26日(土) 13:30 ~ 17:20 (受付開始13:00)

【場 所】群馬会館 ホール 【参加費】 無料

【駐車場】県民駐車場(県庁)会前後に長時間駐車すると料金が発生します。

【単位認定】 日本理学療法士協会(新人教育プログラム:C5 地域リハビリテーション)

日本作業療法士協会(基礎研修自由選択1ポイント)

日本言語聴覚士協会生涯学習プログラムポイント対象

プログラム

【報 告】13:35 ~ 14:05 「渋川地区における高齢者摂食嚥下支援事業

～ず～っと食べ体操の普及活動の取り組み～」

渋川中央病院 言語聴覚士 井田 慎子 先生

【講演Ⅰ】14:05 ~ 15:35 「介護福祉士の役割と介護福祉士からみた地域リハビリテーション」

一般社団法人群馬県介護福祉士会会長/アイ・ウィッシュ株式会社代表 小池 昭雅 先生

【講演Ⅱ】15:50 ~ 17:20 「フレイル・サルコペニアとその改善のための新しい取り組み

～Community As Partner;CAPを用いた地域フレイル予防活動の紹介」

高崎健康福祉大学保健医療学研究科理学療法専攻 教授

東京都健康長寿医療センター研究所 福祉と生活ケア研究チーム(介護予防研究)非常勤研究員

解良 武士 先生

【お申し込み方法】

事前申し込みは平成30年12月3日(月)から開始。

①Fax:お名前、職種、所属、ご連絡先 FAX 番号またはメールアドレスを

ご記入いただきお申込み先まで FAX を送信ください。

②Web:群馬県地域リハビリテーション支援センターHP

<http://www.grsc.biz/> 内の申込フォームより

【お申し込み・お問い合わせ先】

群馬地域リハ研究会事務局 TEL&FAX 027-220-8966



### 群馬県地域リハビリテーション支援センター長挨拶

群馬県地域リハビリテーション支援センター長 山路雄彦

皆様におかれましては、日頃より、群馬県地域リハビリテーション支援センターの事業にご協力をいただきましてありがとうございます。現在の当センターの事業内容は、(1)地域リハビリテーション広域支援センターに対する支援、(2)地域連携、(3)研修会によるリハビリテーション専門職や関連職の地域リハビリテーション啓発活動、(4)介護予防サポーターの養成支援、(5)地域におけるリハビリテーション専門職ネットワーク構築支援、(6)地域リハビリテーションに関する情報提供などがあります。当センターといたしましては、今年度から来年度に向けて、これらの事業の中で、構築が進んできている地域包括ケアシステムを見据えて、(4)介護予防サポーターの養成支援、(5)地域におけるリハビリテーション専門職ネットワーク構築支援の2つの事業を重点的に展開しております。

介護予防サポーターの養成に関しては、既に9,000名を超えるまでになっております。ただし、介護予防サポーターの方々の活躍に関しては、市町村によって様々な形態がとられています。そこで、今年度は、市町村における介護予防サポーターの活躍状況を調査することといたしました。また、地域包括ケアシステムに合わせた介護予防サポーターの内容も変えていくことも求められています。このために、今年度から来年度にかけて、介護予防サポーターの活躍状況を加味して、介護予防サポーターのカリキュラムの更新を予定しております。

地域におけるリハビリテーション専門職のネットワーク構築に関しては、市町村でのネットワークが地域差はあるものの徐々に進んできました。今年度は、このネットワークを更に充実させるとともに、このネットワークを市町村の担当者や地域包括支援センターの職員との連携の場にしていくように支援を進めていく予定です。

今後とも皆様のご協力をお願いいたします。

## 「平成30年度都道府県地域リハ支援センター長会議」報告

### 群馬県地域リハビリテーション支援センター長 山路雄彦

平成30年度都道府県地域リハ支援センター長会議（センター長会議）が、鳥取県の米子で開催中のリハビリテーション・ケア合同研究大会米子2018（合同学会）の会期中の会場内の会議室で開催されました。合同学会とセンター長会議の報告をいたします。

#### 【合同学会】

「互恵互助」をテーマに10月3日から4日の2日間、米子コンベンションセンターBiG SHiPと米子市文化ホールで開催されました。多くの講演、報告、発表がありましたが、初日にありました特別報告「平成30年度7月豪雨 JRAT 活動報告」が、群馬県リハビリテーション支援センターにとって興味深い報告でありました。JRATとは、大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（JAPAN DISASTER REHABILITATION Assistance Team）の略で日本リハビリテーション医学会をはじめ、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会など13団体からなる災害支援に関する団体です。7月豪雨で被害のあった岡山県、愛媛県、広島県の受援の状況が報告されました。この報告の中で、JRATと地域リハビリテーション支援センターや地域リハビリテーション広域支援センターとの連携が報告されていました。群馬県においても、地域リハビリテーションの観点から災害支援、受援両面での対策が必要であると感じました。

#### 【センター長会議】

10月3日（水）11:50から1時間ほど開催されました。現在、全国で概ね20都道府県の地域リハビリテーション支援センターが機能しているようです。会議内容は、①地域リハ支援事業における問題点、②各都道府県からの現況報告でした。他に、日本リハ病・施設協会の老健事業のアンケート実施についての報告がありました。地域リハ支援事業での取組は、各都道府県で全く異なり、参考になる取組も多くありました。とくに兵庫県や京都府でのリハ専門職ネットワークへの取組は進んでおり、担当者と実際にディスカッションを行いました。

### 群馬県地域リハ支援センター事務局便り（2018年4月～2018年12月）

- 06/07 ニュースレター30号、H29年度事業報告書発送
- 08/07 群馬県地域リハビリテーション推進指針第3版発送
- 08/22 リハ職ネットワーク化ミーティング
- 10/03 全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会都道府県リハ支援センター会議（米子）出席
- 11/01 群馬県地域リハビリテーション支援センターホームページ改修
- 11/05 介護予防事業ミーティング
- 11/28 県地域包括ケア推進室より事業予算受入
- 12/10 ニュースレター31号発行

## 高崎市訪問 C の取り組み 地域ケア会議の状況

高崎健康福祉大学保健医療学部理学療法学科 篠原智行

現在、高崎市の訪問型サービス C は、群馬県理学療法士協会・作業療法士会・言語聴覚士会 (POS) 連絡協議会が委託を受けており、また、地域ケア会議は、群馬県 POS 連絡協議会が出場者調整の活動をしております。

訪問型サービス C は介護予防・日常生活総合事業における訪問型サービスの一つであり、心身機能や活動の低下、社会参加等が減少している高齢者に対する訪問指導を行います。サービス対象者は要支援者、または介護予防・生活支援サービス事業対象者です。

高崎市では以下の流れで実施されております。

- ①地域包括支援センターまたはケアマネージャー：サービス対象者を把握
- ②地域包括支援センターまたはケアマネージャー：群馬県 POS 連絡協議会窓口へサービス申し込み
- ③群馬県 POS 連絡協議会：依頼内容に応じて、担当理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を調整
- ④担当療法士：依頼元と連絡をとり、訪問日時調整
- ⑤担当療法士：初回訪問指導
- ⑥担当療法士：3ヶ月以内に評価訪問（\*評価訪問の際、改善にさらに期間を要する場合は、最長6ヶ月のうちに追加訪問を1回実施することが可能）

具体的内容は、転倒の予防、自宅での運動プログラム作成、住宅改造および福祉用具の検討が多数を占めています。訪問指導の都度、担当療法士はA4半分程度の『アドバイスメモ』を作成し、平易な言葉や図示で運動プログラムや住宅改修案を明示します。この内容は地域包括支援センターやケアマネージャーと共有します。

サービス対象者は自宅のほか、サービス付き高齢者住宅にお住まいのことがあり、環境や習慣考慮した上で対応します。リハ専門職として、“なにか一つでも”お役に立てることを考えています。限られた回数での関わりですが、予防的支援のアクセントとなれば幸いで、潜在的需要があると感じます。

地域ケア会議は、年間のスケジュールに合わせて出場者を調整しております。高崎市では毎回1名のリハ専門職が出席させて頂いています。1回の会議では3事例をもとに、専門職の立場として意見のほか、事例を通じて垣間見えた地域の課題の検討を行います。会議での事例は必ずしもリハに関連するとは限りませんが、転倒、痛み、認知症、栄養状態、家族の介護、地域内での活動、が含まれることが多く、幅広い視点で考えます。毎回、多くの情報に加えて事例提供者よりケアプラン作成上の難渋点などのテーマが提示されます。事例提供者の困りごとに応じるためには、意見が脱線しないことを心掛ける必要があります。会議では、事例提供者や事業所の方々の工夫に感銘を受けることが多くあります。

地域ケア会議は、地域におけるミクロな単位での検証です。これを積み上げて、地域のマクロな課題を浮き彫りにし、それぞれの地域の実情に沿った支援を模索していくことになるでしょう。時に、既成概念に囚われない自由な発想で、理想を語るくらいの心持ちがあっても良いかもしれません。現実の課題を的確に認識することはもちろん必要ですが、地域包括ケアシステムに参画する我々が理想を抱かないと、よりよい地域の未来が描けないと感じています。



## 群馬県リハビリテーション関連団体連絡協議会設立について

群馬県地域リハビリテーション支援センター長 山路雄彦  
事務局長 山上徹也

平成 13 年に、障害を持つ人々や高齢者が住み慣れた地域でよりよいリハビリテーションを受けられるよう、群馬県域のリハビリテーション関連諸医療・福祉施設、保健・教育機関、各種関連職、障害者や高齢者を包括するネットワークを構築し、情報交換や研修・啓発活動を通じて、県民の医療・福祉に貢献する目的で、群馬リハビリテーションネットワーク（群馬リハネット）が設立されました。平成 16 年からは群馬リハネットが群馬県地域リハビリテーション支援センター（県支援センター）の指定を受け活動を続けてきました。そして群馬県地域リハビリテーション推進指針の改正に伴い、平成 30 年より群馬県理学療法士協会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡協議会（群馬県 POS 連絡協議会）が県支援センターの指定を受けることとなりました。これまで群馬リハネットが担ってきた県支援センター業務を終えるにあたり、今後の群馬リハネットのあり方が議論され、リハ関連施設、機関、団体が連携して地域包括ケアシステムを構築していく上で、群馬リハネットのネットワーク機能は残すべきとのご意見を多く頂きました。そのため群馬リハネットを発展的に解消し、新しく「群馬県リハビリテーション関連団体連絡協議会」を発足することとなりました。これまでに 27 のリハビリテーション関連の医療・福祉施設団体、職能団体、教育機関等の皆様にご加入の申し込みを頂きました。

これからの群馬県リハビリテーション関連団体連絡協議会は、前述しましたこれまでの群馬リハネットの活動を継続しつつ、地域包括ケアシステムへの地域リハビリテーションの立場から貢献ができる活動を進めていきたいと考えております。さらに、群馬リハネットが県支援センターの指定を受けているときは、群馬リハネットの加入団体の意見等を、直接県支援センターの事業に反映することが可能でありました。しかし、平成 30 年より群馬県 POS 連絡協議会が県支援センターの指定を受けていることから、理学療法士協会、作業療法士会、言語聴覚士会以外の個人、団体からの意見等が、県支援センターの事業に反映しづらくなることが予想されました。そこで、様々な方々のご意見を県支援センターの活動に反映させるために、群馬県リハビリテーション関連団体連絡協議会でその役割を担っていききたいと考えております。

多くの個人、団体の方々に、この趣旨をご理解いただき、加入していただきましたことに御礼を申し上げます。今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 群馬リハネット事務局便り (2018 年 4 月～2018 年 7 月)

- 06/03 ぐんま認知症アカデミー  
第 13 回春の研修会(後援)
- 07/04 平成 30 年度第 1 回群馬リハネット理事会  
群馬リハネットから群馬県リハビリテーション関連団体連絡協議会へ移行

### 群馬県リハビリテーション関連団体 連絡協議会 事務局便り (2018 年 7 月～2018 年 12 月)

- 07/04 群馬県リハビリテーション関連団体  
連絡協議会設立
- 07/31 入会申込書送付  
※2018 年 12 月現在 加入団体 27 団体

### 群馬県 POS 連絡協議会事務局便り (2018 年 4 月～2018 年 12 月)

10/23 2018 年度 第 1 回会議

### 編集デスク

山路雄彦  
山上徹也  
角田祐子

発行

群馬県地域リハビリテーション支援センター  
群馬県地域リハビリテーション支援センター事務局

群馬大学大学院保健学研究科内

Tel/Fax : 027-220-8966

E-mail: tsunoday@gunma-u.ac.jp